

# 学校法人 米田学園 米田柔整専門学校

## 学校関係者評価報告書

(令和3年度)

### <<評価項目一覧>>

- 1 教育理念・目標
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学習成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の受入れ募集
- 8 財務
- 9 法令などの遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

## 令和3年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校 学校関係者評価委員会は「令和3年度 自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告する。

### 1. 学校関係者評価委員

業界関係：森川伸治

卒業生：杉浦光幸

加納功詞

有識者：森 虹輝

### 2. 令和3年度 自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する学校の取り組み
教育理念・目的	教育理念・目的は明確に提示されている。その理念に沿ってビジョンが示され、PDCA が構築され、業務改善の取り組みが行われている。それらが BSC 会議という形で見える化されている点は評価できる。今後、夜間部がなくなるのは非常にさみしい気持であるが、新しい時代に合った形の学校運営を行っていただきたい。	理念に沿ったビジョンを来年度は見直して新たな中期目標も検討していく予定である。時代の流れとともに変えるべきところと変えてはいけないところを判断していきたい。夜間部が再来年度からなくなることで働き方も変わってくるため、柔軟に対応して学生にとっても、職員にとっても最適な形を模索していきたい。
学校運営	学生募集状況も改善され、学校運営も安定化してきている。コロナ禍においてもオンライン講義の実施などできるだけ学生の学びを止めないように工夫されてきたことは評価できる。今後、ICT 化を進めていくとのことだったので様々な学校改革を期待したい。	学生募集は最重要事項として PDCA も多く掲げており、それらの成果が出てきたことは喜ばしいことである。今後も基本的な感染症対策を実施した上で、With コロナの時代に合わせた授業を実施していく。特に実技や臨床実習に関しては学生にとって不利益にならないよう積極的に展開していきたい。ICT 化に関してもソフトランディングで進めていく。
教育活動	カリキュラムに沿って適切に教育活動が行われているが、今後米田柔整の質保証として到達目標を明確化し、それに向けて特徴のある教育ができると望ましい。柔道整復師として外傷を扱える知識、技術に加えて、医接連携など幅広い能力を必要とする業務に関しても高いレベルで実施できる柔道整復師を輩出できるように尽力していただきたい。	質保証に関してはまだまだ明確化されたものはないため、できるだけ議論を重ねて到達目標を掲げられるように進めていきたい。学生も外傷を診たいという声が多いため、柔道整復師の強みをしっかりと受け継げるように基本的な教育を実施していきたい。医接連携に関しても、学校教育のなかで紹介状の作成を習うなど現場に即した内容も取り込んで、臨床現場で役に立つ学びを提供していきたい。

学習成果	<p>全国平均よりは高い数字ではあるものの、国家試験の合格率が 100%となるように是非とも全学体制で取り組んでいただきたい。柔道整復師の資格以外にも、<b>JATI-ATI</b>（日本トレーニング指導者協会認定 トレーニング指導者）やスポーツ医学検定の資格取得など幅広く学生の可能性を広げているところは評価できる。</p>	<p>国家試験の合格率に関しては新卒 100%を常に目標として取り組みを進めていきたい。トレーナー関連の資格取得に関してもできるだけ学生のサポートを手厚くして合格者を増やしていきたい。また、初年次教育に関しても力を入れていくことで留年者、退学者の減少を学校全体の課題と捉えて対策を講じていきたい。</p>
学生支援	<p>就職に関してはコロナ禍においてもオンラインでの就職説明会を実施するなど積極的にサポートが行われている。今後は夜間部が廃止されることで社会人の入学生がさらに減少する傾向も予測されるため、より保護者との連携も重要になってくるかもしれない。また社会人が入学して働きながら学べる仕組みもできるだけ失わないように授業時間なども工夫できるとよい。</p>	<p>就職に関しては卒業して入職してからの情報をできるだけ企業とやり取りすることで課題を抽出したいと考えている。社会人のニーズに関しては午前クラスを設置することで早めに帰宅できる仕組みを作っているが 50 分授業が発生するため、今後検討が必要であると考えている。保護者とのコミュニケーションは <b>Zoom</b> なども駆使してできるだけ密にコミュニケーションを取れるように体制を構築していきたい。</p>
教育環境	<p>アルコール消毒を各教室に設置するなど基本的な感染症対策は実施されていると評価する。今後は ICT 化の波に乗っていきけるように電子教科書などの導入など、十分に検討した上で方向性を決めていただきたい。</p>	<p>コロナ禍の状況に合わせて学生の健康、安全を第一に対策を講じていく。ICT 化に関してはソフトランディングでできることから変革を開始して、時代に乗り遅れないように進めていく。まずは教員に対して電子教科書を配布して活用する方法を検討したいと考えている。</p>
学生の受入れ募集	<p>以前の状況からすれば随分と改善がみられ、入学者も定員を満たしている状況は評価できる。今後は入学者の質を上げるとともに、本当に柔道整復師になりたい者、またはその素質を十分に持っている者を選別して、入学受け入れを行って欲しい。そのためにはアドミッションポリシーを入学前にしっかりと理解してもらおうことも必要であると考えている。</p>	<p>スポーツをキーワードに学生募集は引き続き最重要項目として進めていく。今後は機能訓練などの分野でも活躍する卒業生にスポットをあてて、柔道整復師のやりがいをアピールしていきたい。<b>JATI-ATI</b> のように、カリキュラム外で資格取得にチャレンジする仕組みなども機能訓練分野で模索していく。アドミッションポリシーに加えて、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーなどを策定し、学校としての基盤となる考え方を統一していく。</p>
財務	<p>学生募集が好調であるが、支出を抑える取り組みも重要となってくる。光熱費を抑えたり、退学者の減少を図ることで安定した学校運営を行っていただきたい。</p>	<p>学生募集を引き続き最大限の努力をもって行っていき、定員を 90 名まで増やしても高いレベルで入学者が確保できることを最終の目標としている。そのためにはまだ課題は多くあるため、ワンチームとなって改善を進めていく。</p>

法令などの遵守	オンライン授業などでは著作権の問題も新たにでてくると聞いたので、事前に対策を講じていくべきである。	情報収集を適切に行い、適正に対応できるように努めていく。
社会貢献	米田道場を地域の子どもたちに開放して、柔道の魅力を伝えていることは素晴らしい取り組みであると評価している。	今後も継続して道場を運営し、さらに多くの子どもたちに柔道の魅力を伝えていく。また、ボランティア活動なども積極的に考えて、学生主体で活動ができる取り組みを検討していきたい。

### 【総評】

コロナ禍においても学生の学びを止めないようにオンライン授業を取り入れるなど、努力されているところは評価できる。学校の理念、ビジョンをもとに進むべき方向を明確化して、米田柔整しかできない教育を行っていくことで他校との差別化を進めていって欲しい。卒業生との連携もさらに強化して、業界とタッグを組んで柔道整復師の明るい未来を子供たちに提示できるように協力して進めていきたい。学生募集が回復傾向にあるので、今後はその質向上に目を向けてより一層の改革を進めて欲しい。